

SCと協議体はどう役割を果たすか ～SCと行政との連携、1層と2層の連携など～

提 言

生活支援コーディネーターと協議体は一体となって、住民の求める生活支援活動を戦略的に楽しみながら引き出していこう。

登壇者

【進行役】	土屋 幸己氏	(一社)コミュニティーネットハピネス代表理事
【アドバイザー】	原 勝則氏	元厚生労働審議官・老健局長
	目崎 智恵子	高崎市第1層SC・(公財)さわやか福祉財団
	渡邊 優子氏	村上市第2層SC
	河村 政徳氏	犬山市第1層SC
	貝長 誉之氏	太子町第1層SC

■ 寄せられた声から

- みなさんの取り組みを聞いて、勇気をもらいました。楽しんでがんばりたいと思います。
- 具体的な話もあってヒントもいただきました。何よりもさらに自分の心に火がつかしました。
- 行政として、困っているSCさんに手助けしたいと思いました。貴重なお話ありがとうございました。

■ 議事要旨 土屋 幸己氏

進行役の土屋から、本分科会の趣旨説明の後、各登壇者からの発言をいただく。以下、その発言からのポイントをまとめる。

高崎市第1層生活支援コーディネーター 目崎智恵子氏
人口37万人の高崎市において協議体をどのように作り出してきたのかについて発言された。その中でも住民主体に重きを置き人材の掘り起こしに力を入れた。市への政策提言をしながら住民と意見交換を重ね、3年かけて第2層から着手し第1層まで作り上げてきた。

特に留意したポイントとしては、①第1層を作る際に第2層の声を吸い上げるために2層のメンバーを1層に入れた、②協議体の活動を活性化させるために定期的な情報交換会を開催した、③住民勉強会には必ず行政担当者にも参加してもらった、④地域での困りごとを協議体全員で共有した、⑤協議体メンバーで目指す地域像を共有した、⑥ニーズ調査を実施した、⑦地域ケア会議に参加してニーズを把握した。

村上市第2層生活支援コーディネーター 渡邊優子氏
村上市は、第2層SCを、NPO法人総合型地域スポーツクラブを運営しているNPOのGMである渡邊氏に委託。多世代とのかかわりが大切であるという視点で地域課題に取り組んでいる。

取り組みのポイントとしては、①多世代のかかわり、地域共生を意識する、②若者の参加を得るために世代別のフォーラムを実施した、③地域ごとの課題を明確にして、課題解決に取り組む、④参加者を増やすために広報で周知した、⑤第2層は自分で動くだけでなくナビゲ

ーター、仕掛人であることに留意した、⑥各地域の実践を共有し発表会を企画した。

犬山市第1層生活支援コーディネーター 河村政徳氏
河村氏は、一般社団法人和顔の輪に所属しながらプロパーでSCに就任。協議体のコンセプトを共同企業体と位置づけ第1層・第2層作りに取り組んだ。
取り組みのポイントとしては、①SCが孤立しがちになるので定期的な連絡会を開催した、②SCや行政の制度理解を進めるため勉強会を開催した、③地域情報を協議体につなげ人や場所のマッチングを図った、④地域で活動している人や団体に、協議体の内容を理解してもらい協議体に対するアレルギーを軽減した。課題としては第2層SCの所属している法人の意識によりSCの活動が制限されてしまうこと。

太子町第1層生活支援コーディネーター 貝長誉之氏
太子町は、近隣市が取り組みを始めたことをきっかけに、社協に体制整備事業を委託して取り組みが始まった。
取り組みのポイントとしては、①ガイドラインのまま実施しても市の実情に合わないので、まず行政、社協、住民で規範的統合のための勉強会を行った、②わからないことは住民に聞くという姿勢を持った、③10年後の太子町のイメージを共有した、④あったらいいなを、なくては困る、なければ作るへとつなげた、⑤協議体のメンバーはフラットな関係を意識した。

以上を踏まえ提言をまとめた。

アンケートの結果 参加者概数：160名 回答者数：143名

